奉公人居成に召仕候儀、毎春公事場より相觸候得共、前々之格に而、近年指支候儀茂無之候間、最早今年より觸不申候。乍然幾年過候而茂、主人申渡候御定之趣致違背候者有之候者、公事場に可被及斷候。急度可申渡候。尤右之段年寄衆に茂相達如斯に候條、此旨御組御支配中可有御申觸候。以上。

（寛保二年）戌二月七日

藤田求馬
富田織部
品川主殿
菊池十六郎

二八 奉公人欠落に付斷書付等之儀觸

御家中奉公人欠落斷之書付、其主人より延引之人々茂有之、又は請人等手前、相對に而給銀或は取逃之品辨候得者、下に而事濟置、若追而申分出來之節、不得止事及斷候族茂御座候。向後ケ樣之仕形候得ば、御格違申候間、主人之越度に罷成可申候。

一、欠落人請合證文を以、請人手前過錢等申渡候節、人違或は判形猥成儀に而、難訣立趣時々有之旨、兼而役人共申聞候。畢竟奉公人召抱候節、請人共之判形見屆候もの、不埒成故に候間、主人より急度可申渡儀に御座候。尤右之族向後於有之は、見屆人之越度に可申付候。

右之趣、心得違之人々茂有之躰に御座候間、御家中一統承知有之樣、兼而御觸出置可然儀と、同役詮議仕候。以上。

（延享四年）十一月廿一日

品川主殿
富田織部
生駒右近
菊池十六郎

前田對馬守樣

二九 於江戸奉公人詰延候年限之儀觸

於江戸、若黨幷小者出替等仕、唯今迄は勝手次第幾年茂詰延候得共、向後者三ケ年を限爲相詰可申事。

但、主人永詰仕、居成に召仕候共、右之趣可相心得候。

若無據儀に而永く召仕候者は、其頭・支配に可及斷候。

以上。

（元文元年）丙辰四月

右は諸代等に召仕候者之事に而は無之、一季居若黨・小者等之儀に候間、可得其意旨、御用番本多安房守殿諸頭に被仰渡。